

「ごえんびと」

第六回 のうのば

森のようちえん こめらっこ

土屋 美香さん



土屋 美香さん



のうのばさんの小菊かぼちゃを使った
2019年の精進料理の会

連載コーナー「ごえんびと」

壽徳寺にご縁のあるひと(ごえんびと)にインタビューし、想いを伺いながらご縁を深めます。

第六回目は、「のうのば」と「森のようちえんこめらっこ」の土屋美香さんです。

「五感で感じる精進料理」を開催して以来のご縁です。この会では、のうのばさんが育てた会津伝統野菜「小菊かぼちゃ」を使わせていただきました。また土屋さんは「森のようちえん」を運営されています。

農業と森のようちえん。どちらも人と自然の密接につながっている活動です。アクティブに活動される土屋さんの源も伺いながらのインタビュー。どうぞご覧ください。

森のようちえんとは

自然体験活動を基軸にした子育て・保育、乳児・幼少期教育の総称。

森に限らず、海や川や野山、里山、畑、都市公園など、広義にとらえた自然体験をするフィールドを指す。対象は、幼稚園だけでなく、保育園、託児所、学童保育、自主保育、自然学校、育児サークル、子育てサロン・ひろば等が含まれ、そこに通う0歳から概ね7歳ぐらいまでの乳児・幼少期の子ども達を対象とした自然体験活動を指す

*森のようちえん全国ネットワーク連盟HPより

——「のうのば」さんについてお伺います
いつから始められたのでしょうか？

「のうのば」という屋号で、会津伝統野菜を育てはじめて七年くらいになります。

伝統野菜を育てるきっかけは、『東北食べる通信』という雑誌をとっていたことで、会津伝統野菜を守ってくださっている会津若松の長谷川純一さんや喜多方の清水薬草店さんにつながったことです。そこから、小菊かぼちゃ、余時きゅうりの種をわけていただき、育てています。

猪苗代は若松より標高高い分、収穫時期もずらせるので、向こうで足りないとかあった時には届けていたり、今でもつながっています。町内で育てているのはうちだけですかね。

ちなみに、この屋号は、農業の場という意味で「のうのば」と付けました。ひとと自然を繋ぐ場として響きがいいなと思って付けた屋号です。



伝統野菜を育てる上で大変なことは？

苗をおこしている時から、他の野菜との成長スピードが全然違います。出だしが順調な時もあるけど、ゆっくりの時もあります。収穫量が少ないというのがありますね。

固定種、在来種と言われるものですが、撒いて毎年採っていることでその土地に合ったものが残ってくるようになってきます。この土地にあったものを種取りし七年くらい続けてきて、だんだん土地に馴染んで強くなっていますし、毎年育ってくれています。

無農薬、無化学肥料で

栽培されているのすよね？

はい。農業も自然の一部をお借りしてやっているから、なるべくその土地に負担をかけずやりたいという想いは常にありました。それに、安心して子どもに食べさせられるもの、と考えたら、できるだけ薬とか余計なものはないなと思うようになり、無農薬、無化学肥料にたどり着いたんです。

いろんな育て方、やり方がありますが、これからもここで繋げてゆくために、地域の循環の中で生きていけるやり方を選んでいきたいなと思います。



お寺からの依頼はどう思われましたか？

なんで私達のこと知ってるの？と思いましたが、見つけていただいていたありがたいなと思いました。精進料理の会の時に小菊かぼちゃを使っていただいたことをきっかけに、森のようちえんのフィードとして、境内で焚火や焼き芋、裏山へ遊びに行かせていただいていたありがたいです。



2019年10月
精進料理の会の様子

猪苗代に移住されて何年になりますか？

嫁に来て八年ですね。東京で開催されているアースデイという地球環境を考えるイベントで知り合ったのがきっかけで結婚し猪苗代に嫁ぎました。私は東京生まれで、大学院卒業後、児童館や学童施設で勤務し、その後青年海外協力隊としてバングラデシュへ二年赴任。その後アースデイの仕事をしていた時に出会って結婚し、猪苗代へ来ました。

田舎のカルチャーショックとかは？

福島には、喜多方や鶴ヶ城しか来たことなかったのですが、そんなに抵抗なく生活しています。バングラデシュを経験してますから、大抵のことは大丈夫です笑。

東京から嫁にただけで地域のみなさんがよこんでくださって、ありがたかったですね。みんな優しく見守ってくれる地域ですので、ありがたくやりたい放題やらせていただいています(笑)

森のようちえんについてお伺います。

いつからスタートされたのでしょうか？

子どもが産まれてからです。

二歳ごろ、畑仕事している脇で遊んでいるのを見て、「こんな環境で育てたいな」という気持ちが湧いてきました。綺麗な室内の幼稚園で過ごすのもいいけど、人間も自然の一部だから、土とか野菜とか水とか、その中で育つのは自然だなと。

じゃあ、この辺にそういう場所がないからやるか！と思った時に、同じ気持ちのお母さんたちが何人かいて、はじめました。園舎とか整えてからというのがありますが、整えている間に子どもが大きくなってしまいうので、とりえず三年前にはじめてしまいました。

この園舎は祖父の持ち家ですが、今は使われなくなったので、みんなで畳替えや床張り直したり、修繕してスタートしました。

——通われている方は

どのくらいいらっしやるのですか？

登録としては五十組くらいいらっしやいます。ほかにインスタグラムなどをみて初めて参加される方も多いです。投稿を見て、その時に来たい方が参加しているかんじです。

コロナ前は若松、郡山、喜多方など町外が多かったです。コロナ後は町内の方も増えました。猪苗代町内も自然は多いですが、私有地だったり自由に遊べるところが限られてしまうんです。

ここでは、田んぼの水路や湖水に行ったり、外でのびのびと、こじんまりとやっていますので、みんな久々にマスク取って遊んでいますね。

——コロナ状況下で園を開くことは

大変な面もありますか？

緊急事態宣言中は、閉めていました。ですが子どもたちには今しかない、「また来年やればいいや」で済まないこともあると思い、開けようと決めました。こんな状況でもできることがあるんだという気づきも多かったです。

大人よりも子どもの一年は変化が大きいです。その大事な一年を、充実して過ごしてもらえなと思っています。

——園ではどんな雰囲気でしょうか？

分断がない、なんでもありの場、分断の逆を行う場でありたいと思っています。それぞれの考えを認め合える場にしたと思います。

今日も、何気ない雰囲気の中でお母さん同士が授乳の悩みなどをお話されていました。かしまった講座ではなく、リラクセスした中でお互いの相談やお話ができる場となっているのがいいと思います。

お互いの子どもと一緒に遊んだり、お母さん自身もこの場を楽しんでいるのが嬉しいです。この場の雰囲気、なかなかひとりで説明できないんですよ（笑）



園舎周辺の様子

——コロナでご自身の変化はありましたか？

コロナ以前は、いつも去年どおりの繰り返しだったと思います。コロナになって、今までの人生を立ち返ることが多いですね。おもしろいと思うとつっぱる方ですが、一度立ち止まれということなんだと感じています。

一年以上東京に行かない毎日。普通なら堪えられないはずなのに、ちゃんと足元を見られるようになっていきます。足元をちゃんと見ると、いい素材がたくさんあるなということを実感しています。

——美香さんは、いつもパワフルに

活動されていらっしやいますよね。

原動力はどこから湧いてくるのでしょうか？

私自身が楽しいことですね。誰かの為にやっただけでと思うと、自分が願っている反応がないと期待はずれになってしまう。けれど、自分自身が楽しくて、楽しむことがスタートであれば、それを広げていきますよね。そんな感じがします。

東京にいたらこんなことはやってないですね。なにもないからこそ、無いなら自分でつくればいいじゃん！という気持ちでやっていることは多いと思います。今の活動も海外協力隊のようなかんじですかね（笑）

今後考えている事をお聞かせください

森のようちえんをNPO法人化して、事業として回してゆきたいと思っています。お母さん達の仕事を生む。仕組みを考えていきたいです。どんな形であれ長く続けてゆくのが目標です。

こんなことを思ったのも、つい最近です。森のようちえんが四年目に入った頃。このままでもいいけど、仕事をつくりたいという想いが出てきました。

田舎にもいろんな働き方があってもいいなと思っています。親が自分たちで仕事作って楽しそうにやっていると、こども達が見て、ワクワクしてもらえるかなと。そんな想いから法人化しようかと思いはじめました。

都会に住んでいた時は、モノとお金のつながりが強かったように感じます。田舎は人と人とのつながりが大きい。困った時には助けてくれる誰かがいてくれる。気を遣うこともありますが、お互いさまの精神で他人でも助けてくれる人がいる事はありがたいですね。

これからもこの環境で、私ができることを楽しみながら続けていきたいなと思っています。

——ありがとうございます

これからもよろしくお願ひします

時間をかけてゆっくり育てる会津伝統野菜のお話や、森のようちえんでのお母さんとお子さんの自主的な時間を大切にされているお話はとても印象的でした。短期的な結果を求めがちな今の世の中ですが、それぞれの時間軸の中で、自然の流れに沿って時を重ねることの大切さを改めて考える時間となりました。

これからも、森のようちえんのフィールドのひとつとして境内を活用いただいたり、のうばさんの野菜での精進料理の会をまた開催できればと思っています。

*インタビュー・文 松村妙仁

*二〇二二年七月十四日 園舎にてインタビュー



のうのば Facebook ページ

<https://www.facebook.com/nounoba>

土屋 美香さん プロフィール

東京都出身

大学・大学院で社会福祉を学び、児童館や学童保育所勤務を経て青年海外協力隊としてバン格拉デシユの村の小学校で二年間活動。帰国後、地球の環境について考える日本最大級のイベント「アースデイ東京」事務局に携わったことをきっかけに猪苗代町へ移住。身体にやさしいバン格拉デシユのカレーを広めるべく「curry&spice cholun (チョルン)」としても活動。



森のようちえんこめらっこ
ホームページ

<https://komerakko.webnode.jp/>

